
階段

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
階段

【Nコード】
N0799M

【作者名】
川崎ゆきお

【あらすじ】
これも聞いた話だな。神社そのものが妖怪変化じゃった

「これも聞いた話だな。神社そのものが妖怪変化じゃった」

老人が語り出した。

「高昌神社はよくある氏神様じゃ。山の根にチヨンと座つとるように立つとる」

「それが妖怪なんですね」

「そうじゃない。神社は神社だよ」

「では、どうして神社が…」

「早い話、神も仏も妖怪も同じ連中なんだな」

「はあ」

青年は納得できないようだ。

「で、その男は神社近くに引つ越してきた。糖尿病が心配でな、毎朝歩いておった。高昌神社はそのコースに入っておつたらしい。市街地よりは歩きやすく、縁も多いからのう。村がいつの間にか市街地になり、氏神様の役目も終えていたんじゃないだろうか。あまり手入れもされておらなんだ」

「神主は？」

「そんな大きな神社ではないらしく、氏子が少数残っている程度だな。その氏子も、代変わりするにつれ、名ばかりの氏子になれ果てておつたようじゃ」

「それで妖怪に？」

老人は即答しない。

「いつものように、その糖尿男は神社の階段を上がっておつたとき、その階段が上がれんようになった」

「体調が悪くなつたんでしょうか？」

「階段がなくなり、ただの坂道になったという」

「出ましたねえ」

「ちよつとやそつとの坂じゃない。急勾配じゃ。崖といつてもよか

ろう。両手をつかんとおつこちそうなほど…」

「やってますねえ」

「下を見ると、さっきまでの階段もない。下の道は朝の散歩者が普通に歩いておる」

「怪異ですね」

「男は上りきることもできんし、下りることもできん」

「じつとしておると、ますます崖が高くなり、下に行く散歩者も小さくなっていきよる。上を見ると第二の鳥居は遙か彼方じゃ」

「階段の怪談ですねえ」

老人は無視する。

「その男、力つきて滑り落ちた」

「それがオチですか？」

「階段の二段目で足を滑らせ落ちただけじゃったようじゃ」

「二段目ですか。まだまだ序の口ですねえ」

「まあな」

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0799m/>

階段

2011年2月3日01時34分発行